

田原市議会傍聴記

地方政治
クリエイト

伊藤 秀昭

国際的都市間連携

大竹正章氏(自民クラブ)は田原市の人口減少傾向から、介護や農業分野の後継者不足が重要課題であり、その人材確保手段として「技能実習」の在留資格者を中心として他国都市との連携を行うべきと主張した。

法改正

辻史子氏(公明)は、公立小中学校の教職員定数の算定方法を定めた「義務教育標準法」が改正される見通しとなったことから質問した。

改正

改正により発達障害児への特別指導(通級指導)や日本語指導を行う教員の増員や配置を安定的に確保する道が開け、

よりきめ細かな指導も可能となり、結果的に学校現場全体の改善にも好影響を与えるとしている。

それだけに、田原市の発達障害児などの教育現場の課題を明確にし、法律改正の趣旨がどのような効果を生み出すのか

渥美半島は消滅しない

具体的に議論してほしかった。

増える遊休農地

河邊正男氏(共産)は「創生総合戦略」について多角度から質問した。

「と河邊氏は質問したが、産業振興部長は「出し手」側の問題と「受け手」側の事情による問題等が重なって、遊休農地が発生している現状がある」と回答。国の交付金事業等により農地の再生に取り組み遊休農地の解消

運営

中神靖典氏(自民クラブ)は、下水道事業について公営企業会計への移行が要請されていることか

また公営企業会計への移行により使用料が若干値上げになる。また集落排水の従量制への移行により、水道使用量の多い大家族では高くなり、一人暮らしや高齢者世帯では安く

出額で全国一位を誇る田原市であるが、今後も現在と同様の農業を維持していかるとは思えない」として農業移住支援の取り組みや農家民宿を促進し、交流人口の増加と農家の所得向上を図るべきと主張。

田原市はまた、「地方消滅」に対抗して農村再生のトップリーダーでなければならぬと思う。若いころ、岐阜県養老の田舎で田植えや稲刈りに朝早くから駆り出されていた頃、オヤジが口癖のように教えてくれた言葉が忘れられない。「土地と食べ物がある農家はどんな時でも滅びない」。

水道部長は2020年4月からの移行に向け進められていると

市民生活に直接影響していくことだけに今後の丁寧な説明が必要でないか。

農業移住支援

長神氏は「農業産出額で全国一位を誇る田原市であるが、今後も現在と同様の農業を維持していかるとは思えない」として農業移住支援の取り組みや農家民宿を促進し、交流人口の増加と農家の所得向上を図るべきと主張。

農業を生かした人口増加策について取り上げたのは長神隆士氏(自民クラブ)。

人口減少に歯止めがかからない渥美半島。基幹産業が、これまた多くの課題を抱える農業だけに深刻。しかし、日本一の農業産出額を誇る

田原市はまた、「地方消滅」に対抗して農村再生のトップリーダーでなければならぬと思う。若いころ、岐阜県養老の田舎で田植えや稲刈りに朝早くから駆り出されていた頃、オヤジが口癖のように教えてくれた言葉が忘れられない。「土地と食べ物がある農家はどんな時でも滅びない」。

上下水道事業の

市でありながら、遊休農地が増えている

長神氏は「農業産出額で全国一位を誇る田原市であるが、今後も現在と同様の農業を維持していかるとは思えない」として農業移住支援の取り組みや農家民宿を促進し、交流人口の増加と農家の所得向上を図るべきと主張。

田原市はまた、「地方消滅」に対抗して農村再生のトップリーダーでなければならぬと思う。若いころ、岐阜県養老の田舎で田植えや稲刈りに朝早くから駆り出されていた頃、オヤジが口癖のように教えてくれた言葉が忘れられない。「土地と食べ物がある農家はどんな時でも滅びない」。

田原市はまた、「地方消滅」に対抗して農村再生のトップリーダーでなければならぬと思う。若いころ、岐阜県養老の田舎で田植えや稲刈りに朝早くから駆り出されていた頃、オヤジが口癖のように教えてくれた言葉が忘れられない。「土地と食べ物がある農家はどんな時でも滅びない」。